

平成20年度事業報告書

．本年度における事業は、概ね平成20年度事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力いたしました。

平成20年度の社会情勢は、上半期においては石油の高騰に加え、前年の天候不順による農作物、特に小麦の生産の被害が大きく影響し、食品の値上がり等諸物価の高騰をきたし、売店及び食堂の運営に大きく影響を及ぼしました。

また、下半期においては、米国発の金融危機に端を発し、国内では全産業ベースで景気悪化が起こり、この影響から消費低迷、購買力の低下等全商品にわたりいわゆる「買い控え」が起こりました。

本会の各事業においてもこの影響を受け、当初予算より総体的に約1.1%減となりましたが、従来にも増して人件費の抑制をはじめ、本会事務・事業の合理化・省力化を行い、景気低迷による影響を最小限に抑え本会の事業を適正なものとし、患者、職員、学生及び見舞い人等の立場に立ったサービスの向上に努めました。

貸借対照表は、下記のとおりです。

摘 要	資産額	負債額	正味財産額
一 般 会 計	857,520,248 円	210,667,667 円	646,852,581 円
駐車場管理委託業務 契約特別会計	18,585,047 円	18,585,047 円	0 円

正味財産増減計算書は、下記のとおりです。

摘 要	経常(外)収益額	経常(外)費用額	当期一般正味財産増減額
一 般 会 計	1,337,024,234 円	1,345,624,927 円	8,600,693 円
駐車場管理委託業務 契約特別会計	58,011,345 円	58,011,345 円	0 円

財産目録は、下記のとおりです。

摘 要	資産額	負債額	正味財産額
一 般 会 計	857,520,248 円	210,667,667 円	646,852,581 円
駐車場管理委託業務 契約特別会計	18,585,047 円	18,585,047 円	0 円

収支計算書（一般会計）は、下記のとおりです。

摘 要	収入額	支出額	収支差額
事業活動収支の部	1,337,024,234 円	1,345,028,474 円	8,004,240 円
投資活動収支の部	81,863,140 円	72,072,866 円	9,790,274 円
財務活動収支の部	0 円	0 円	0 円
当期収支差額			1,786,034 円

収支計算書（駐車場管理委託業務契約特別会計）は、下記のとおりです。

摘 要	収入額	支出額	収支差額
事業活動収支の部	58,011,345 円	58,011,345 円	0 円
投資活動収支の部	0 円	0 円	0 円
財務活動収支の部	0 円	0 円	0 円
当期収支差額			0 円

なお、キャッシュ・フロー計算書は、20頁から21頁に示したとおりです。

・事業の内容

大学病院支援事業等経費【事業総額 25,400,326円】

1. 医学の研究に関する奨励及び助成 : 事業額 6,500,000円

本会設立の主要目的の一つである医学の研究に関する奨励及び助成には、従来からその目的遂行に努力して参りました。

平成20年度は、前年同様医学研究費を北海道大学病院に助成しました。

2. 患者の慰安及び支援：事業額 15,010,326円

北海道大学病院の患者の慰安及び支援を図ることも本会の主要目的の一つで、本年度は下記とおり実施しました。特に北海道大学病院患者サービス推進委員会との連携を密にし、新しい患者サービス支援事業にも対応できるようにしたほか、平成19年4月に病院職員の労働環境改善をとおして優秀な人材確保を図る目的で設置された「北大病院保育園ポプラ」への助成を北海道大学病院からの要請により毎年恒常的に支援することにいたしました。

さらに、北海道大学病院職員及び患者等から要望のあった「コーヒーショップ」誘致のため、院内環境整備費(コーヒーショップ誘致のための施設整備費)を助成し、平成20年7月10日に「スターバックスコーヒー」がオープンとなり、職員及び患者等の「潤いと安らぎの場」を提供し、患者サービスの向上に努めました。

- (イ) 患者サービス充実経費助成
- (ロ) 温室管理経費助成
- (ハ) 温室花鉢植栽経費助成
- (ニ) 外来植木鉢借上管理経費助成
- (ホ) 患者慰安花卉展経費助成
- (ヘ) 患者慰安写真展経費助成
- (ト) ボランティア経費助成
- (チ) ふれあいコンサート及び看護の日等行事実施経費助成
- (リ) 北大病院保育園ポプラ行事実施経費助成
- (ヌ) 患者慰安淡水魚等維持管理経費
- (ル) 精神科神経科病棟生け花及びファミリーハウス盛花等経費
- (ヲ) 入院患者慰安用品贈呈経費
- (ワ) BGM放送に使用するCD購入経費
- (カ) 精神科神経科入院患者小遣い管理経費
- (ヨ) 院内環境整備費助成

3. 職員及び学生の学事研修に対する奨励：事業額 1,890,000円

北海道大学医学部、歯学部及び北海道大学病院の学生並びに職員の学事研修等に対して、下記のとおり助成しました。

- (イ) 教育奨励費を助成
- (ロ) 看護部研修会発表原稿収録集経費の一部助成

4 . 北海道大学医学部創立90周年記念事業助成2 - 2 :

事業額：2,000,000円

北海道大学医学部は、平成21年に創立90周年を迎えるに当たり、平成18年11月から記念施設「北海道大学医学部会館(フラテ会館)」の建設等記念事業を計画しています。

本会にもその記念事業実施の支援要請があり、援助額を検討した結果、二年度に分けて総額5百万円を助成することとし、平成19年度は一期目の助成として300万円の助成を行い、平成20年度は二期目の助成として200万円の助成を行いました。

患者、職員等必需品供給事業経費

【事業総額1,181,789,571円】

北海道大学病院の患者、職員、学生及び見舞人等の皆様の利便を図るため、利用者ニーズに合わせた安価で良品質の品揃えや、日常必要とするものを取り揃える等その事業を下記のとおり実施しました。

また、北海道大学病院から要望のあったコーヒーショップ(スターバックス)を、食堂の一部を割愛して業務委託型で開店させ、職員及び患者等の「憩いと安らぎの場」を提供し、患者サービスの向上に努めました。

(イ) 販売業務

医科及び歯科の売店並びに薬店の商品を充実させるとともに、特売日、特売品等を多数取り揃え、価格の低廉化に向けた取り組みを行い、利用者の利便性・サービスの向上に努めました。また、サービスコーナー・薬店においては、患者サービスの観点から診療科から要望が出される医療用用具・用品等の十分な在庫を行い、いつでも患者に供給できるよう、かつ適正価格で販売するよう努力を行いました。

また、病棟への移動販売や精神科神経科への商品のお届け、病棟一時閉鎖に伴う配達等患者サービスの向上に努め、さらには、北海道大学認定商品いわゆる「北大グッズ」の取扱い及び広報用キャンパス・ガイド・マップの配布等に積極的に取り組み、北海道大学病院だけでなく北海道大学全体への貢献にも努力いたしました。

一方、利用者の立場に立って、「清潔で、明るい、サービスの行き届いた店舗」作りを心がけ、商品の配置の工夫や、季節感漂う「憩いと安らぎ催しコーナー」の設置等を行い、親しみやすく、かつ憩いと安らぎのある店作りに努力いたしました。

(ロ) 食堂業務

北海道大学病院の患者、職員、学生及び見舞人等の皆様の栄養管理の一翼を担っているとの認識を持ち、カロリー表示メニュー等を行い、かつ季節感漂うバラエティに富んだメニューの工夫・提供及び食材の質の向上に努力するとともに、昨今社会問題化している食品管理・衛生管理を徹底し、利用者が「安全・安心」と感じることのできる食堂となるよう努力いたしました。

その一方、北海道大学病院の要請により、平成20年5月にコーヒーショップ設置のための場所として、食堂の職員コーナー(40席、約70㎡)を廃止し、平成20年7月には、本会の業務委託契約によるコーヒーショップ(スターバックス)を開設いたしました。

なお、このことにより、食堂の利用者数及び売り上げ等に相当の影響が生じる結果となっています。

(ハ) 薬品業務

北海道大学病院の門前薬局として、院外処方箋により調剤業務と服薬指導を行うとともに、提供薬剤の種類を拡大し、さらに薬剤師の研修等に積極的に参加させ、北海道大学病院を訪れる外来患者の利便を図るよう努力しました。

なお、長期投薬の影響及び病院前に門前薬局が新たに増えたことに伴い年々処方箋取り扱い枚数が減少傾向にあり、加えて平成20年度は薬価及び調剤基本料等の引き下げが行われましたが、当初予算策定の際に想定されたことでもあり、これらの影響率は少ないものとなっていますが、薬局経営上は、年々厳しい状況となっています。

(ニ) 用達業務

入院患者へのサービス向上のため、貸し付けテレビ及び洗濯機・乾燥機等のメンテナンスを充実させるとともに、サービスコーナーにおいて下記の業務を行い、利便を図りました。

また、使用済みテレビカード5枚(5,000円)につき500円を還元するサービスや患者サービスの向上のため土曜日営業を継続実施しており、さらには、祝日法改正に伴って連休が多くなっている現状に鑑み、サービスコーナーでは利用者に不便をかけないよう連休の中日に営業を行うようサービスの向上に努めています。

(1) 入院患者付添人への簡易ベッド及び寝具の貸付 (2) 特別病室の電話貸付 (3) プリペイドカード使用によるテレビ・洗濯機及び乾燥機の貸付 (4) コールドロッカーの貸付 (5) 公衆電話の設置 (6) 電報の受付

(ホ) 福利厚生施設として、本会で直接経営することが困難な下記の専門業務を委託し、業者に対して指導監督に努め利用者の利便性を図りました。

(1) 理容業務 (2) 美容業務 (3) 乳製品販売業務 (4) 歯科材料販売業務 (5) 洗濯物取扱業務 (6) コーヒーショップ(スターバックス)

(ヘ) ファミリーハウス

ファミリーハウスの管理業務を病院側から受託し、利用する付添家族に居心地の良さや利用しやすい環境維持に努めました。

なお、この受託業務での収益はほとんど見込めず、むしろハウス備え付け新聞の購入や玄関の盛り花等を本会が無償で提供する等経費の持ち出しにより管理業務を行っています。

本会では、この業務は病院財団の使命と考え、少しでも宿泊者の心の安らぎになればと施設設置当初から採算を度外視して管理業務を受託しています。

(ト) 精神科預かり金管理業務

この業務は、本来病院として行うことになってはいますが、公金以外の現金の取扱が病院では難しいことから本会が無償で行っています。

平成20年度においても精神科入院患者ご家族から、患者様が入院生活上不便を来さないよう依頼を受けて、日用品の購入、嗜好品の購入、理容・美容等のいわゆる「お小遣い」をお預かりして、現金管理及び業者の支払い等を行って、患者サービスの充実に努めています。

なお、この業務は、患者様及びご家族のプライバシーに関わる問題を含んでいることから、本会では専任の職員に担当させ、また管理に必要な台帳類、諸伝票等の作成経費等は本会が負担しています。

(チ) その他

患者、職員学生及び見舞い人等の利便性を考慮し、FAX及びコピー機の設置、宅配取り次ぎ業務を行っており、平成20年度も継続して行いました。

また、院内感染防止対策から病院より依頼のあった外来及び病棟へのマスク自動販売機によるマスク販売や、クリスマスの時期に実施している入院患者全員へのプレゼントサービスを継続して実施いたしました。

駐車場管理委託業務契約特別会計：

事業総額 58,011,345 円

北海道大学病院と「駐車場管理業務」の直接委託契約を締結し、病院構内の安全管理及び環境保全に尽くしました。

また、平成20年度分の収益金12,276,998円は、北海道大学へ納付しました。

なお、この駐車場管理委託業務契約は、平成21年度から北海道大学病院が直接管理業務を行うことになったことから、本年度で終了となりました。